資料5

ワークシート①：被災後の「住まい」の復興を考えよう！

それぞれの世帯でさまざまな課題が生じています。まちの被害状況や復興のポイントを考慮して考えてみましょう！



あなたは新小岩北地区在住の「東京さん」です（設定）。被災後、仮住まいや自宅の再建はどのようにしますか？
またその選択をした理由は何ですか？状況付与に応じて、住まいの再建の方法を選択・チェックし、その理由を書いてみましょう！

Q１.
東京さんにはどのような「住まいの復興」が必要だと思いますか？

災害応急対策		復旧		復興		
緊急対応期	避難生活期		応急復旧期	復興準備期	復興始動期	復興本格期
発災直後～１週間	～2 週間	～１か月	２か月	～４か月	～６か月	２年～

自分の建物が健全であっても、隣家が倒壊してくる可能性があるなど、周囲の状況によっては「危険（赤色）」と判定されることもあります。

応急仮設住宅の入居申請をしても、希望者が多い場合、入居できない場合もあります。

Q２.被害状況から見てどこで避難生活をしますか？

- □避難所
- □福祉避難所
- □在宅避難
- □地区外避難
  - □親戚・知人宅　□賃貸住宅
  - □ホテル　□その他＿＿＿＿＿＿

日常生活に必要な部分を緊急に修理する際、被災住宅の応急修理制度を利用できる場合があります！

Q３.どこで仮住まいを過ごしますか？

- □応急仮設住宅
  - □建設型　□福祉仮設
  - □賃貸型(みなし仮設)
- □在宅避難
- □応急修理を実施した自宅
- □地区外、その他
  - □親戚・知人宅　□賃貸住宅
  - □ホテル□その他＿＿＿＿＿＿

応急修理の期間が１ヵ月を超える場合で、自宅が半壊(住居として利用できない場合)以上の被害を受け、仮住まいの確保が困難な場合は６か月の期限付きで応急仮設住宅の入居ができるようになりました。

Q４.どのように住まいの再建をしますか？

- □持ち家・ﾏﾝｼｮﾝを建設・購入
  - □地区内　□地区外
- □持ち家・ﾏﾝｼｮﾝを改修
- □賃貸住宅に入居
  - □地区内　□地区外
- □災害公営住宅入居
- □その他＿＿＿＿＿＿

応急仮設住宅での生活は２年です。
そのため、住まいの再建を２か月目くらいから具体化していく必要があります。

住宅の再建を検討した結果から普段からできる取り組みをチェックしてみましょう！

- □耐震診断・耐震補強
- □地震保険への加入
- □耐火性の高い建物への改修
- □その他
  （＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

Q2　選択の理由と条件	Q3　選択の理由と条件	Q4　選択の理由と条件
課題	**課題**	**課題**